

自分の日を数える祈り 詩篇 90:1-17	2021. 5. 30(皐月)丘の上 NO. 658 春日部福音自由教会 山田豊
------------------------------	---

神の人、モーセの祈りです。説教題に「○○の祈り」と何回かありましたが、今朝は私たち自身の祈りを、み言葉から教えられたいと思います。

表題に「神の人モーセの祈り」とあります。これは、「アッシジのフランシスの平和の祈り」と同じように、モーセの名を冠した祈りの詩篇であると思われます。モーセはイスラエルの民をエジプトから導き出し(出エジプト)、神から十の戒め(十戒)を受けた、イスラエルの歴史において重要な人物の一人です。祈りの人でもあったことでしょう。

この詩篇は、葬儀、告別式でも朗読されるみ言葉です。人の命のはかなさを日本人の感性にも響くように歌われているだけでなく、わたしたちの思いを神に向けさせ、自らの人生を顧みるヒントとなるみ言葉です。

3-6節には、神は人をちりに帰らせるとあります。ちり、土から造られた人間は、確かに死ねば肉体は朽ちていきます。ちりに帰りますね。それと共に、神に造られたものとして、神に立ち返ることも意味しています。放蕩息子のたとえ話といわれるルカ 15 の物語は、このことを象徴的に表しています。時間で計る人の営みは、神の時間軸から見れば、長いとか短いとかは言えないものでしょう。不思議な感覚ですね。7-11 は、ちょっとドキッとさせられるみ言葉です。亡くなった方が神の罰を受けて死んでしまったのか、と思わせるような部分です。これは特定の個人のことを言っているのではなく、すべての人は罪を犯したので、神からの交わりを断たれ、霊的に死んでいるということを示しています(ローマ 6:23)。アダムとエバが禁断の木の実を取って食べてしまいました。すぐに心臓が止まって死んでしまったわけではありません。しかし、神のみ顔を避けて自分の裸を恥じたということは、神との交わりが絶たれ、霊的に死んでしまったことを表しています。ですから人は、神のもとに立ち返られなければ、生きるものとはならないのです。

12節の「自分の日を数えることを教えてください」は、フランシスコ会訳によると「残りの日を数えることを教え」とありました。葬儀は亡くなった人のためではあるのですが、実は列席した人たち、遺された人たちが自分のこれからの人生を考えるためでもあるのです。詩篇の作者は続けて、「そうして私たちに知恵の心を得させてください」と祈ります。そこから出てくるのが、わたしたちの「手のわざ」(17節)なのです。それは、神の慈愛に基づく愛のわざであるはずで。

ある著名な禅宗のお坊さんは「座禅は自我が薄められ、静かな心から生じた知恵によって慈愛の実践へとつながる」と言われました。自分の日を数える祈りは、残りの生涯をどうにかして、主イエス様が示してくださった愛のわざを行う日々の営みに表されるものとなるのです。

引用聖句

マタイ 6:9 ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。』

申命記 34:7 モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。

創世記 2:7 神である【主】は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

哀歌 2:19 夜、見張りの始まりに、立って大声で叫べ。

士師記 7:19 真夜中の夜番が始まるとき、ギデオンと、彼と一緒にいた百人の者が陣営の端に着いた。

1 サム 11:11 翌日、サウルは兵を三組に分け、夜明けの見張りの時に陣営に突入し、昼までアンモン人を討った。

創世記 2:17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。

創世記 3:3-5 しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」

3:7 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

ローマ 6:23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

1テサ 5:16-18 16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 すべてのことにおいて感謝しなさい。

1 年を長く感じる理由 「動的平衡」福岡伸一より

「実際の時間の経過に、自分の生命の回転速度(体内時計)がついていけない、そういうことである。」

→添付書類参考

最上のわざ

この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとり、

働きたいけれども休み、

しゃべりたいけれども黙り、
失望しそうなときに希望し、
従順に、平静に、おのれの十字架をになう――。
若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを見ても、ねたまず、
人のために働くよりも、けんきょに人の世話になり、
弱って、もはや人のために役だたずとも、親切で柔和であること――。
老いの重荷は神の賜物。
古びた心に、これで最後のみがきをかける。まことのふるさとへ行くために――。
おのれをこの世につなぐくさを少しずつはずしていくのは、真にえらい仕事――。
こうして何もできなくなれば、それをけんそんに承諾するのだ。
神は最後にいちばんよい仕事を残してくださる。それは祈りだ――。
手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。
愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために――。
すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。
「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と――。

Hermann Heuvers